

★☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆
♪ジョイコン NEWS♪
第57号(2022年12月)
★☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

今年も余すところ一か月となりました。

さて、今年度の公演予定(1月&3月)は下記本文にご案内の通りです。
来年度(2023年度)も、これまで同様6回の公演(奇数月第3日曜日)を予定しております。
出演者の選定も、皆様から寄せられたアンケートのご希望等も参考にして、5月ピアノ独奏、7月ヴァイオリン、9月フルート、11月ヴァイオリン、2024年1月弦楽四重奏、3月ピアノ三重奏とほぼ決定済みです。
年内には、ジョイコンのウェブサイトに出演者名を発表する予定です。
引き続き「ジョイコン」を宜しくお願い申し上げます。

それでは、「♪ジョイコン NEWS♪」(第57号)をお届け致します。

【もくじ】

-
- 【1】次回コンサートのご案内
 - ◆第60回コンサート
 - 【2】今後の予定(先取り情報)
 - ◆第61回コンサート
 - 【3】楽器よもやま話～ヴァイオリンの共鳴孔はなぜ「f」字形？
 - 【4】コンサートのアンケートから

【1】次回コンサートのご案内(予約受付中)

-
- ★☆☆第60回コンサート☆☆☆
 - ◇2023年1月15日(日曜日) 14時開演
 - ◇出演：黒川 侑(ヴァイオリン)、日高志野(ピアノ)
 - ◇プログラム(予定)
 - ◆ブラームス：ヴァイオリン・ソナタ 第2番 イ長調 作品100
 - ◆マスネ：タイスの瞑想曲
 - ◆ベートーヴェン：ヴァイオリン・ソナタ 第5番 へ長調 作品24「春」
 - ◆シューマン：トロイメライ
 - ◆ブラームス：ヴァイオリン・ソナタ 第3番 ニ短調 作品108
 - ◆ラヴェル：ツィガース
 - ◇料金：大人・高校生2,000円、中学生以下1,000円
 - ◇会場：横浜市港北公会堂(東急東横線 大倉山駅より徒歩7分)

第60回ジョイフルコンサートは
『黒川 侑 ヴァイオリン リサイタル～名曲とめぐるブラームスの歌と夢』と題して、
お届けします。

黒川 侑さんからメッセージが届いています

この度は、60回目となる大倉山ジョイフルコンサートに出演させていただきますことを嬉しく思っています。
今回のプログラムのテーマは僕の愛する作曲家である「ブラームス」で、彼の作曲した素晴らしい2曲のソナタを中心に、ブラームスと同時代に生きた、あるいは彼と同じ発想で創作をした作曲家の作品から、スプリング・ソナタ、トロイメライといった名作を選曲しました。
ブラームスの、人間の心の内側をそのままに映し出していくような詩情溢れる2つのソナタはもちろん、普段耳にする機会の多い名曲も、そういった視点でいつもとは少し違った姿を発見いただけたらとても嬉しく思います。
神奈川県出身のピアニスト日高志野さんとは、今回2回目となる共演です。
皆様にお聴きいただけますことを、心から楽しみにしています。(黒川 侑)

第60回のジョイフルコンサートは黒川侑さんのヴァイオリンコンサートです。ドイツ3大Bの1人ブラームスにスポットを当てています。ベートーヴェンの曲も演奏予定ですので、3大Bの中の2人の作曲家の曲が聴けるとても聴きごたえのあるプログラムです。どうぞお楽しみになさってください。

★ブラームス/ヴァイオリン・ソナタ 第2番 イ長調 作品100/
第3番 ニ短調 作品108

●ブラームス

ブラームスの音楽を「長年熟成された芳醇な赤ワインとか上質なビロードのようだ」と言っていた人がいました。

イメージは明るい、華やか、軽やかとは真逆で重厚、重い、味わい深いという感じでしょうか？

それにしてもずいぶん偏屈な人だったようです。次から次へと仲たがいでいってしまっていて、ごく限られた人とだけ親しくしていたとか。

ピアニストとしてもとても優秀だったので、よく演奏を求められました。できる限り断って、弾いても弾き飛ばして早く終わらせようとしていたそうです。

自分の作曲した曲についても話したがらないし、自分の気持ちを率直に話すことが苦手だったそうです。

それでもある程度経済的に余裕ができてからは、親族や学生に経済的な援助は惜しまなかったという一面もありました。

天邪鬼な性格だったのかもしれませんが。

●ヴァイオリン・ソナタ 第2番 イ長調 作品100/第3番 ニ短調 作品108

2番のヴァイオリンソナタはブラームスには珍しく、明るい曲調ですが3番は一転して、暗い曲調になっています。

この2つのソナタが作られた時期は、人付き合いが苦手なブラームスが、多くの友人たちと付き合い、充実した時間を過ごしていました。そのため2番は明るい曲となりました。その後すぐ友人で音楽学者のカール・フェルディナント・ポールの訃報を聞き、ヴァイオリンソナタ 第3番も、その後作られた曲も陰影を帯びたものになってしまいました。

2番ソナタの第1楽章の冒頭の主題について、ワーグナーの「ニュルンベルクのマイスタージンガー」の懸賞の歌との類似性が指摘されていましたが、ブラームスは怒って「馬鹿にはそう聞こえるんだろう」とコメントしていたそうです。

3番ソナタは2楽章アダージョが、私は個人的にはとても好きです。ニ長調8分の3拍子でゆったりと叙情豊かにヴァイオリンがメロディーを奏でるという感じです。1楽章は始まりがちょっと悲劇的な感じがして、2楽章に入るとホッとします。

ブラームスはしみじみと、じっくり聴きたい曲が多いですね。本当に赤ワインにぴったりかもしれません。

どうぞお楽しみになさってください。(A.N)

■予約申し込みはこちら

ホームページ：<https://www.ohkurayama-joycon.com/>

予約専用電話：080-8424-5108

【2】今後の予定（先取り情報）

☆☆第61回コンサート☆☆

◇2023年3月19日（日曜日）14時開演

◇出演：AYAMEアンサンブル・バロック

野崎真弥（バロック・フルート）、鳥生真理絵（バロック・ヴァイオリン）

折原麻美（ヴィオラ・ダ・ガンバ）、名越小百合（チェンバロ）

◇プログラム（予定）

◆F. クープラン：コンセール 第3番

◆G. P. テレマン：コンチェルト 第1番 ト長調

◆J.-P. ラモー：オペラ《ピグマリオン》より序曲

◆J.-P. ラモー：コンセール 第3番

ほか

◇予約受付開始：2023年1月16日（月曜日）午前9時より

★プログラム等詳細は順次、本紙面、ウェブサイト、チラシ等でお知らせします。

【3】楽器よもやま話～ヴァイオリンの共鳴孔はなぜ「f」字形？

ヴァイオリンやチェロなどヴァイオリン属と呼ばれる楽器のボディ部分（表板）には弦をはさんで左右対称に2カ所共鳴孔があります。その形状がアルファベットの“f”（実際はイタリック体の*f*）に似ていることからf字孔と呼ばれています。

なぜ「f」字の形をしているのか、実ははっきりした理由は分かっていないそうです。現在の「f」字形になるまでに「C」字形や半月形、火炎形、「S」字形などさまざまな意匠のものが造られたようです。たとえば、ヴァイオリンより古いヴィオラ・ダ・ガンバ属の楽器では主にC字形の共鳴孔が現在でも引き継がれています。（ジョイコンの3月公演で「ヴィオラ・ダ・ガンバ」が登場しますのでぜひご覧ください）

C字形からf字形に次第に統一されるようになった最大の理由は、表板の強度を保つうえで好都合だったからという説があります。C字形では「C」の内側（楽器の周辺側）において木目が切れてしまうため、その部分の強度が弱く木目に沿って表板が割れやすい欠点があります。この強度的な欠点を補うために色々な形の共鳴孔が試行錯誤され、力の掛かる部分を左右に分散できる「f」字形の共鳴孔になったようです。

f字孔の中央部分には横の「刻み」がついています。この「刻み」は駒（弦の振動をボディに伝えるパーツ）や魂柱（ボディ内部にある表板と裏板をつなげるパーツ）の位置を合わせる基準となっていて、楽器の設計や魂柱調整の上でもf字孔は都合が良かったようです。

ところで、これから乾燥した冬場では日々の乾燥対策が重要になります。ヴァイオリンなどでは「ダンピット」という海綿状のチューブを使って乾燥対策をするそうです。使い方は「ダンピット」を水に浸し、それをf字孔に差し込んでおくだけのようです。プロの演奏家も愛用しているという記事を読んだことがあります。高価な楽器にダンピットの組み合わせ、何か微笑ましいですね。（でくのぼう）

【4】コンサートのアンケートから

前回のジョイフルコンサート（11月20日公演）『都築 惇サクソフォン・リサイタル～2種のサクソフォンで描く美しき世界』は如何でしたか？

「Web アンケート」には、演奏のご感想や運営について、今後のご希望など貴重かつ熱心なコメントを頂きました。一部をご紹介します。

アンケートでの質問「今回のコンサート内容はいかがでしたか？（5段階評価）」に対し、「大変良かった」側の「5」と「4」で95%という高評価でした。

自由記入欄の「演奏のご感想」では、

『念願の都築さんの演奏を生で聴けてとても幸せでした！よく響くホールではないですが、難しい曲も吹きこなせていて流石だなと思いました』

『都築さんとアキさんのハーモニーが本当に素敵でした。温かみのある演奏に大変癒されました』

『とても素晴らしい演奏でした。舞台上でトマジを3月に共演でき、またこうして客席からお聴きできたこと大変嬉しく思います。また、松本さんのファンとなりました』

『都築さんの全身全霊の演奏を聴くことができ、幸せな時間でした』

『サクソフォンを生演奏で聴くのは久しぶりで、とても楽しいリサイタルでした。2種類のサクソフォンの違いも良くわかりましたし、プログラムも工夫されていてどの曲も美しい音色でピアノとの共演も素晴らしかったです』

『テナーサクソの演奏と思い申し込んだが、ソプラノサクソとアルトサクソの演奏で、説明も判り易く聴き入ってしまった。ピアノ奏者との相性も素晴らしかった』など演奏の素晴らしさやトークの分かり易さなどのご感想が数多く寄せられました。

「運営について」では、

“開演前に化粧室の清掃が行われていて困った”との苦情が複数の方から寄せられました。この件は、“あまりに非常識な時間帯”であり主催者としてもお詫び申し上げます。今後は清掃時間を調整してご迷惑が掛からないように致します。

一方『開演前のアナウンスが丁寧で(アメの袋の音、携帯の電源オフなどの注意)とてもよかった』など好意的コメントも頂きました。

そのほか、“集客”に関するご提案や“会場の出入り”に関するご指摘もありました。今後の検討課題にしたいと思います。

アンケート回収数:20(回収率13%)

【編集後記】

ドイツのデュッセルドルフで2006年から毎年9月に開催される管楽器に特化した若手演奏者のための国際コンクールがあります。「アイオロス国際管楽器コンクール」です。9種類の管楽器の中から毎年3部門が入れ替わりで開催されます。今年はクラリネット、ホルン、サクソフォン部門でした。今年はこのコンクールでサクソフォンの住谷美帆さん(2018年11月ジョイコンにご出演)が見事に第2位を受賞されました。今年11月のジョイコンで都築惇さん(サクソフォン)とご出演されたAKIマツモトさんが伴奏者としてサポートされました。ジョイコンに出演された方が世界のコンクールで活躍されるのは本当にうれしいことです。これからもジョイコンは皆様に優れた若手演奏者をご紹介します、応援していきたいと思っています。どうぞお楽しみになさってください。(のん)

※このメールマガジンは、大倉山ジョイフルコンサートのアンケート等で「コンサート情報」を希望された方に配信しております。

■次回予約申し込みはこちら

ホームページ：<https://www.ohkurayama-joycon.com/>

予約専用電話：080-8424-5108

■バックナンバー

メールマガジンのバックナンバー(PDFファイル)はこちら

ホームページ：<https://www.ohkurayama-joycon.com/>

■配信停止/アドレス変更

メールマガジンの登録、配信停止、アドレス変更はこちら

<mailto:info@ohkurayama-joycon.com>

発行：大倉山ジョイフルコンサート実行委員会

Eメール <mailto:info@ohkurayama-joycon.com>

携帯電話 080-8424-5108

URL <https://www.ohkurayama-joycon.com/>